

当時の土木建設は人力によるものでツルハシ、スコップ、モッコ等、軌道によるトロッコが主流で、作業員は請負人夫、地元青年団、消防団、大日本愛国婦人会、一般民勤労奉仕団で半ば強制的に勤労奉仕を義務付け

滑走帯 1300m × 1200m 当時の練習機飛行場は全面芝生で滑走路はなかった。

1941 年 4 月、滑走帯完成、熊谷飛行隊の宇都宮飛行学校、磐城分校として開校
飛行訓練が始まる。約 60 機の練習機が配置された。95 式 1 型練習機



(九五式 1 型練習機)

1945 年 2 月、磐城飛行場特別攻撃教育隊として独立教育隊に昇格。

沖縄戦に対応する特別攻撃隊の操縦士養成の教育隊

3 月には練習機を集結させ約 100 機で猛烈な訓練をした。

1945 年 8 月 9 日、10 日、の 2 日に渡る艦載機多数による集中攻撃により完全に壊滅した。

陸軍飛行隊操縦士の養成機関の一つに陸軍宇都宮飛行学校があったが、養成人員が拡充されたため、宇都宮飛行学校の分校を造ることになり、飛行訓練だけの飛行場を作ることを決定し、その場所を選定したところ、大熊町（当時は熊町村）の海岸にある荒地に目を付け、昭和 15 年 4 月陸軍飛行場建設が決定された。

長者ヶ原にあった農家 11 戸が移転させられ、トロッコ、つるはし、シャベル等

により地元の農家、青年団、消防団等が勤労

奉仕として建設に参加、昭和 17 年早春完工、

陸軍飛行隊宇都宮飛行学校磐城分校（長者ヶ

原飛行場）として発足、95 式中間練習機（機

体が明るいオレンジ色の布張、翼が二枚翼だ

ったので俗称赤トンボ）が初期には 60 機が配

備され訓練に励み、特別攻撃隊訓練隊に昇格

してからは指定されてからの最盛期には 95 型

1 式、95 型 3 式が総数約 100 機位の練習機が配備され前期練習生の訓練が行われた。

